

子どもみこし

ささがわ なお

わたしの夏休みの思い出は、子どもみこしです。はじめはどんなおみこしを作るのかをきめていきます。きまったら中に入るハッポウスチロールや新ぶん紙を切っていきます。そして、組み立てはじめます。きよ年はドラエモンを作りました。絵を書いたり色をぬったりスプレーで色づけしたり楽しかったです。竹コブターを作るのが一番たいへんでした。本番の前日にやっとできたドラエモンのおみこしは、とってもよかったです。本番の日は、ドキドキしたけれど、大きな声で、「ワッショイ、ワッショイ。」と声を出して一生けんめい、かつぎました。ちよっとつかれたけど、とても楽しかったです。

子供みこしに参加して

青田 美香

私が子供みこしに参加した：といっても、実際にみこしをついだわけではありませんが、みこしをかついでいる方たちの紹介をする係で参加させて頂きました。当日、大きなステージに立たされ、「私なんかこんな大役ができるのだろうか」と、とても不安になりました。紹介をしているときは頭の中が真っ白になって大変でした。でも、いろいろなみこしを見ているうち、だんだんその不安はなくなってきました。どれもとても楽しいおみこしでした。その係が終わった後は友達とヨーヨーつりなどをして遊んでいました。少しつかれたけど、おもしろかったです。貴重な体験をした一日でした。

竹松 由美

鳥原新地子供会から昨年で2回目の参加でした。みこし作りの企画、製作まで、できるだけ子供達の手でやってもらい、父兄はお手伝い程度にと、夏休みに入るとすぐスタートしました。ゼロから形のある物にする迄がなかなか大変でしたが、暑い中公民館に集まる人数はだんだん増え、異学年が仲良く遊び、協力して作業するとても素晴らしい子供達の姿がありました。おみこしが出来上がると皆満足気な顔!! お祭りの当日は、自慢のおみこしを担ぎ、猛暑の中、町内を練り歩いた所、地元の方々から励ましやお誉めの言葉をいただき、お祭り会場では、賞までいただくことができました。子供達のがんばりと、チームワークのよさだったことは言うまでもありません。今年も素敵な子供達を見れるのがとても楽しみです。

黒崎まつり2日目に行われた子供みこしに参加された方の声・声・声...

やかた竿燈に向けて

Part32

地域行事の継承と充実を

大野小学校長 小柳 興司

祭、御輿：日本人の心をたかぶらせ、自然への畏敬の念を原点とする民族行事の一つ。農耕を祖とする私たちは、御輿をかつぐことにより、仲間うちの総意を結集し、豊作への期待や思い、収穫の喜びと成就された感謝の気持ちを表した地域行事として受け継がれ、その時々の社会に適応しながら少しずつ変化し今日に至っている。社会が年ごとに激化する今日、その波に乗り続けるも一つの生き方であるが、地域に根ざした行事、習慣を継承し、育むことも将来の黒崎を見据えたとき、必要不可欠な取り組みではないかと考える。大人が、地域が次代を担う子どもたちに残し受け継ぐ行事等にもっともっとかわり、子どもたちにその時々の充実感を体得させる機会として、子ども御輿をこれからも欠かすことのできない地域文化に組み入れ、広めていただきたい。そんな願いをもっている。

大野保育所長 鷺尾 テル子

青い法被に豆しほりをきりりと結び、カッコ良い出立ちで黒崎まつりの神輿行列の始まり。小学生のお兄さんお姉さん達の神輿もあちらこちらからの参加でにぎわう。

皆で作った保育所のピカチュウ神輿とお宮神輿は、小さな可愛い手で持ち上げられ「ワッショイ、ワッショイ」と上に下にゆれる。保育園児と父母の会役員のお父さんお母さんそして職員皆の大きな声が大野商店街に黒崎町に響き渡る。滝のように流れる汗、冷たい麦茶のおいしかったこと。揃いぶみでは練習の成果を発揮し一段と力がい

神輿行列そして揃いぶみが終りいよいよ審査発表。静かに発表を待つ中「まつり実行委員長賞大野保育所」の声「ワァー、ヤッター、バンザイ」の喚声、私は感激で目がしらがあつくなくなった。園児、役員、付き添って下さった家族の皆様そして職員皆が気持を一つにし、いい汗をかき参加への喜びをかみしめました。実行委員の皆様ありがとうございました。



昨年のやかた竿燈